

一般質問

仙北市議会が昨年から会派制になり、年間の一般質問の回数が会派ごとに割り振られ、一定例会8人ほどが質問に立っている。

今定例会は7議員が登壇した。田口寿宣議員は仙北市の財政状況、田沢湖の景観についても取りあげ、真崎寿浩議員は内陸縦貫鉄道と木質バイオマス発電の実現に向けての考え方をただした。

田口勝次議員は市政運営の基本的考え方や来秋の市長選への対応、高久昭二議員は子育て支援について、藤原方正議員は環境問題についてただした。

澤田信男議員は指定管理者制度と定員適正化計画、田口喜義議員は福祉施設の民営化の考え方を聞いた。

行財政改革にスピードを積極的に正しく進める



田口寿宣

質問 仙北市の財政状況も「厳しい」から「危機的」へと表現が変わり、極めて深刻な状況になってきたと受けと

める。この状況から脱却をするには、行財政改革の具体化と更なるスピードアップが求められる。市民にもこの危機的状況をしっかり示し、理解と協力を求め、財政再建に進むべきと考えるが、市長の考えを伺う。

答弁 市の財政状況として厳しい状況という中から平成20年度予算編成、そして施政方針でも危機的状況という表現をした。財政に限らず、人、もの、金、すべて危機的状況であるという認識で行政改革のスタートに立っておるわけである。従って、厳しい状況から危機的な状況に悪化したというようには捉えていない。財政の状況を市民の皆さんに積極的に説明する責任がある。様々な事業についても、市民と行政の協働による進め方を、今後とも理解をえていかなければならないと

思っている。

質問 地域づくり、事業協力を結んでいる法政大学と観光に関する連携協定書を結んでいる。ノーアジア大学等を十分に活用し展開する事によって活性化して行く、一つの要素と考えるが市長の考えを伺う。

答弁 幾つかの大学機関との連携を持ちながら、進めているところである。我々が期待する事は、情報というものを地域の活性化の判断に加えていきたい、そして人づくりに活かしていきたい、というのがねらいである。また、専門家の育成であるとか、中小企業、商店といった経営者の育成につながる様な形で、大学との連携を活かしていききたいと思っ



情報センターで行われた法政大学主催の勉強会

ていきたいと思っ

の進め方について伺う。

答弁 確かに重点プロジェクトをすすめる事によって、地域の活力が生まれ市民所得も上がり、活性化につながるものである。その趣旨から定住プロジェクト、定住促進という事で空き家対策等に取り組んでいる。4月現在12件ほど問い合わせのある中で、そのうち1件が成約した。

質問 田沢湖の景観について、ゴミ、生活排水等、どのような対策を考えているのか伺う。

答弁 現在市としては、9名の廃棄物不法投棄監視員を委嘱して監視に当たっている。また自然公園管理員という事で、県から委嘱されている4名の方々に情報、監視、指導をお願いしている。19年度から市町村型設置合併処理浄化槽の導入を進めている所である。市の顔である田沢湖をみんなで汚さないという、当事者意識を持つていきたいと思っ

マイレールの意識高揚を乗車に最大限の努力をはかる



真崎寿浩

質問 秋田内陸線鉄道 存続も寺田知事が、9月まで結論を出すといわれており、北秋田市はスクールバスに一度転換したが、現在一部見直しを検討している。

仙北市全体として、マイレールの意識を高揚させる取り組みが必要と思うが、石黒市長の考えを伺いたい。

答弁 秋田内陸線鉄道 存続については、再生計画五年間の中間点であり、人員、経常収支共、計画数値に対し未達成である。

県内陸部振興の為に、観光客比率を上げ、地域おこしをし、鉄道の魅力を感じ乗車してもら